

# 2019年度 県外教育関係機関研修 報告座談会

令和元年10月28日(月)に、目黒区立中目黒小学校、板橋区立成増ヶ丘小学校、板橋区立赤塚第二中学校へ視察研修した報告座談会が行われました。参加者は70名余、とても活発な意見交換が行われました。内容は以下の通りです。

## 1 全体会Ⅰ

### (1) 開 会

(2) 上伊那教育会長挨拶 林 武司 会長

(3) 視察研修の概要説明 伊藤 寛明 先生

(伊那中学校)

## 2 座談会 ※8つのグループに分かれての分散会

## 3 全体会Ⅱ

(1) 各グループで話題になったことの発表

(2) 副会長挨拶 小澤 徳夫 副会長

(3) 閉 会



## 教育会長挨拶 林 武司 会長

皆さん、こんにちは。

「県外教育関係機関研修」を実施し、今年で6年目となります。県外の教育実践を実際に見て、そこから自らの実践を見返すため、志をもつ先生方を募り研修視察を続けてきました。この研修は会員自身の主体的な研修ではありますが、学んだことを広く会員の皆様方にも還元するという使命を持っています。

本年度の視察研修先は、会員に希望を募り、東京都の中目黒小学校、成増ヶ丘小学校、赤塚第二中学校に学ぼうと、19名の視察研修団で研修して参りました。視察先の学校はそれぞれ、午前5時間制、プログラミング教育、教科センター方式と独自の教育実践を行って、内外から評価を受けている学校です。

まさに「百聞は一見に如かず」、参加者それぞれに、子どもや学校、先生方の生の姿、授業の実際に触れ、感銘をもち、自らの日常の取り組みに重ねながら、学んできました。すでに、自校の先生方に紹介したり、授業改善に取り込んでいたりしているとお聞きしております。

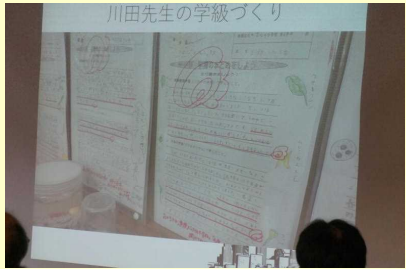
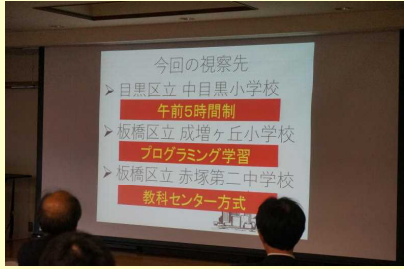
私は、富山・川崎そして今回の東京と、3回この研修に同行させていただきました。私は3回の研修から、それぞれの地域、学校の特色やよさを学ぶとともに、上伊那の教育理念「はじめに子どもありき」「限りなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」は間違いのない道であることを確信しました。

本日の報告座談会は、先ほど述べたように、その学んだことを、広く、より多くの会員の皆さんに、還元する場です。今年も多くの参加者があり、これほどの関心をいただきましたことに対し、ありがたく、また大変嬉しく思います。

つい先日配布されました「上伊那教育139号」には、16名の先生方の報告レポートが掲載されました。また本日のプレゼンと座談会の様子については、次号の「上伊那教育」140号に掲載させていただくこととなっております。本日参加できない先生方にも参考にさせていただきたいと思っています。

本日は、報告座談会ではありますが、先生方ご自身が、今現在抱えている悩みや課題、また取り組み状況の実際を語っていただき、目の前の子どものため、自分自身の今後の実践のため、お土産を一つでもお持ち帰りいただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

## 研修視察の概要説明 伊藤 寛明 先生（伊那中学校）



3つの学校の特色ある取り組み（午前5時間制、プログラミング教育、教科センター方式）について、丁寧かつ授業での児童生徒の姿を、具体的に分かりやすく発表していただきました。

**分科会での様子…どの分科会も熱心に語り合う姿があり、  
お互いの思いに触れることができました。**



### 分科会で話題になったキーワード

カリキュラムマネジメント…午前5時間制、日課の工夫、午後の時間の活用、無駄をはぶく学校として何を指すか

ICT…容易に使える施設・設備、活用方法

プログラミング教育…研修機会、施設・設備

長野県との違い…活動の仕組み方、掃除で何を大切にするか、中学の部活、地域とのつながり